

現代美術の再発明

ゲンロン カオス*ラウンジ 新芸術校 最終期(第6期)



新芸術校第4期の最優秀作家・青木美紅<1996>、第4期最終選抜成果展「ホーム・ランド」展 展示風景

写真提供=松下哲也

2020年4月、「ゲンロン カオス*ラウンジ 新芸術校」最終期（第6期）を開講いたします。
今年度をもって現在の形での「ゲンロン カオス*ラウンジ 新芸術校」の開校は最後となります。

最終期である本年度は、第5期に引き続き、「通常課程」「コレクティブリーダー課程」の2課程のプログラムを用意しています。

「通常課程」では「展示」を中心に据えつつ、制作や展示のアイデアを具現化できる美術家の育成を目指し、カリキュラムをさらに強化しました。

「コレクティブリーダー課程」は、前期である第5期で新設されたコースで、キュレーションと論文執筆をメインに学びます。

講師には鮎屋法水、梅津庸一、サエボーグ、さやわか、榎木野衣、新藤淳、西澤徹夫、堀浩哉、やなぎみわ、弓指寛治ほかの各氏をお招きし、年間を通して制作の基礎、キュレーションの歴史、展示の設計と会場の設営、美術とテクノロジー、批評など、現代美術家として不可欠な要素を学び

ます。最終講評会審査員には、岩淵貞哉、福原志保、柳美里、和多利浩一各氏をお迎えし、主任の黒瀬陽平とともに審査が行われます。

劇作家で小説家の柳美里氏、美術家の福原志保氏、サエボーグ氏は今回が新芸術校にお越しただく初めての機会となります。

アーティストとして新たな表現を模索する方や、分野にとらわれないキュレーションを学びたい方など、広く美術に関心のある皆様のご応募をお待ちしております。

【新芸術校とは】

新芸術校は、思想家・東浩紀が創業した株式会社ゲンロンが、2015年に立ち上げたアートスクールです。美術批評家、アーティストグループ「カオス*ラウンジ」代表の黒瀬陽平氏を主任講師に、会田誠氏、榎木野衣氏、飴屋法水氏、宮台真司氏、宇川直宏氏ら多彩なゲスト講師をお迎えして、美大とは異なる形で美術家を育成してきました。

6年目である本年度をもちまして、「ゲンロン カオス*ラウンジ 新芸術校」は最終期となることを予定しており、現在の形式の年間を通したプログラムでの授業は最後となります。

第1期（2015年度）の金賞受賞者・弓指寛治は、第21回岡本太郎現代芸術賞で岡本敏子賞を受賞し、2019年には「あいちトリエンナーレ2019」の参加アーティストに選抜されました。また、第2期（2016年度）の金賞受賞者・磯村暖は、台北・關渡美術館でのレジデンシープログラムへの参加をはじめ、国内外で活躍しています。第3期金賞受賞者の新井健もワタリウム美術館地下オン・サンデーズでの個展「OUTTA STEP」を開催するほか、ストリート、ライブと活躍の場を広げています。第4期金賞受賞者の青木美紅も「あいちトリエンナーレ2019」への最年少での出展を果たすなど、これからの活躍が期待されています。

ほかにも、新芸術校生は、東京・住吉の民家を舞台にした「バラックアウト」展（2016年）、弓指のキュレーションによる「デスライン」展（2017年）、第2期受講生の秋山佑太のキュレーションによるセゾンアートギャラリーの「Ground Under」展（2017年）、中央本線画廊で開催された第1期受講生トモトシによる個展「tttv」展、YEBISU ART LABOで開催された第1期浅田賞を受賞の鈴木薫による個展「サキノハカ」（2018年）など、活躍の場を広げています。



新芸術校第1期優秀賞を獲得した弓指寛治の作品〈輝ける子ども〉。本作品は「あいちトリエンナーレ 2019」に出品されたインスタレーションのメイン作品。

【卒業生の活躍】



新芸術校第1期 金賞受賞者 弓指寛治

新芸術校第1期で金賞を獲得した弓指寛治は、2016年にワタリウム美術館地下のギャラリー、オン・サンデーズで個展デビューを果たしたのち、『美術手帖』2016年12月号の特集「あなたの知らないニューカマーアーティスト100」で取り上げられました（pp. 60-61）。

2017年には中心メンバーとして参加した「バラックアウト」展の展評が『美術手帖』2017年3月号（評者：土屋誠一、pp. 176-177）に掲載、キュレーションした「デスライン」展の展評が『美術手帖』2017年5月号（評者：榎木野衣）に掲載されるなど、活躍の場を広げ、2018年の第21回岡本太郎現代芸術賞では岡本敏子賞を受賞し、2019年には「あいちトリエンナーレ 2019」の参加アーティストに選抜され、多くの観客から高い評価を得ました。



新芸術校第4期 金賞受賞者 青木美紅

写真提供= Keiichi Tatsumura

新芸術校第4期で金賞を受賞した青木美紅は、「人工授精」や「クローン」などの「選択された生」について、刺繍を使用したインスタレーション作品を展開しています。

2019年には、「あいちトリエンナーレ2019」への参加作家アーティストへ抜擢され、本スクールの選抜成果展で発表した作品を発展させた大型のインスタレーションを展開し、最年少ながら注目を集めました。選抜成果展で発表した作品は今年度新芸術校のキービジュアルにも使用されています。2020年春には個展も予定しており、これからの活躍を期待されています。

【最終期（第6期）プログラム】

最終期である本年度は、第5期に引き続き、「通常課程」「コレクティブリーダー課程」の2課程のプログラムを用意しています。

「通常課程」では「展示」を中心に据えつつ、制作や展示のアイデアを具現化できる美術家の育成を目指し、カリキュラムをさらに強化しました。

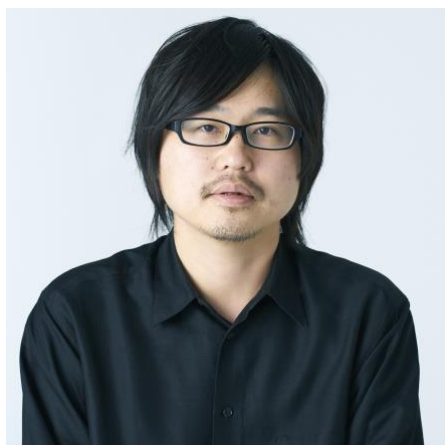
「コレクティブリーダー課程」は、前期である第5期で新設されたコースで、キュレーションと論文執筆をメインに学びます。

講師には鮎屋法水、梅津庸一、サエボーグ、さやわか、樫木野衣、新藤淳、西澤徹夫、堀浩哉、やなぎみわ、弓指寛治ほかの各氏をお招きし、年間を通して制作の基礎、キュレーションの歴史、展示の設計と会場の設営、美術とテクノロジー、批評など、現代美術家として不可欠な要素を学びます。最終講評会審査員では、岩渕貞哉、福原志保、柳美里、和多利浩一各氏をお迎えし、主任の黒瀬陽平とともに審査が行われます。

劇作家で小説家の柳美里氏、美術家の福原志保氏、サエボーグ氏は今回が新芸術校にお越しいただく初めての機会となります。

座学、ワークショップ、美術館・ギャラリーへのツアー、そして展示という実践の機会。ゲンロン カオス*ラウンジ 新芸術校では、過去を踏まえて未来をつくる、現代美術家を育成すべく、独自のプログラムを提供します。また、ひらめき☆マンガ教室との合同授業など、ゲンロンスクールを横断する機会も用意されています。

【主任講師の言葉】



主任講師 黒瀬陽平

現代美術の再発明

現代美術が、あるひとつの、単純なゲームに堕ちようとしている。

2010年代以降、わたしたちの日常的なプラットフォームとなったソーシャルメディアは、美術界をも飲み込んでしまった。ソーシャルメディアの内部で生まれ続ける分断が、そのまま美術界の分断を生み、美術界の勢力図を書き換えていった。閉ざされたプラットフォームのなかで、あらゆる表現はただちに、わかりやすい代理表象となり、単純なメッセージに変換されてしまう。政治的であるかそうでないか、右か左か、リベラルか保守か、被害者か加害者か、マーケットかオルタナティブか…… 情報技術を背景にした現代美術の「ポリティカル・ターン」は、プラットフォーム上で繰り広げられる出口のない分断のゲームと化してゆく。

2019年の「あいちトリエンナーレ」をめぐって起こった「表現の自由」論争はまさに、そのような10年代のポリティカル・ターンの完了を告げるものだったと言ってよい。現場（現実）の混乱とソーシャルメディア上での炎上が連動しながら肥大し、どのような立場であろうと、ソーシャルメディア上で少しでも言及すれば、この論争に「動員」される。いや、それだけではない。たとえ何も言及しなかったとしても、それは「政治性に鈍感なJアート」として動員されてしまうのである。

このような論争が、現代美術を、かくも単純な分断のゲームに変えてしまった。そこで議論されている「表現」とは、「自由」とは、「政治」とは、一体なんのことを指しているのか。芸術には、そのような単純な論争の「外側」にある表現、自由、政治が、あったはずではないのか。「検閲」が

あったことや「電凸」があったことが、現代美術を脅かしているのではない。ソーシャルメディア上で加速する分断のゲームによって、その「外側」の声がかき消され、本来、芸術が持ちうる広がりや深さが失われてしまったことこそ、現代美術の危機なのである。

思い出してほしい。そもそも現代美術とは、そんなくだらないゲームの外に出る自由を行使することから、はじまったのではなかったか。そして新芸術校は、出口のない分断のゲームから脱出し、現代美術を再発明するための場だったのである。

新芸術校のプログラムは、表現者の内なる違和感を言語化し、作品化するためだけでなく、それらを発表し、語り、流通させることに対しても、機能するように組み立てている。2015年に新芸術校の第1期を立ち上げた時、このような構想を「前衛の再設定」と名指してみた。あれから5年がたち、今あらためて言葉にするなら、「現代美術の再発明」と言うのが正確だろう。

ゲンロン カオス*ラウンジ新芸術校は、第6期をもって一度、幕を下ろす。最後の年が、あいちトリエンナーレの翌年であることは大きな意味を持つだろう。わたしたちは、分断のゲームに墮してしまっただけでなく、現代美術を、再発明しなければならない。新芸術校は、そのための場所なのだ。自らの内に、新たな現代美術の種を宿した表現者たちの参加を、心待ちにしている。

(黒瀬陽平)

【プログラム詳細】

【通常過程】

通常過程では、「展示指導」を軸に、現代美術の現場を見学する「ツアー」、実践となる「展覧会」「講評会」を組み合わせた授業スケジュールが組まれています。2020年9月から12月にかけて五反田アトリエにて合計4回のグループ展と講評会を開催し、すべての受講生が展示に参加する機会を持ちます。2021年3月には、ゲンロンカフェにてグループ展で成果を出した受講生による選抜展と講評会を開催します。

「展示指導」では、「作品を作る」「展示を企画する」「展示を批評する」の3つのカリキュラムから、文脈ある論理的な展示の作り方と作品制作の方法を学びます。「作品を作る」では美術家の堀浩哉氏とサエボーグ氏、「展示を企画する」ではコレクティブ運営を行っているパープルーム主宰・美術家の梅津庸一氏と建築家の西澤徹夫氏をそれぞれゲスト講師にお招きします。

後期は「展覧会」が中心となります。9月から12月にかけて、五反田アトリエにて合計4回のグループ展を開催します。受講生は9月(4名)、10月(6名)、11月(8名)、12月(12名)の4グループに分かれ、作品を展示します(カッコ内は想定される展示参加人数)。展示時期が後になるにつれて、参加人数が増えますが、時期が早いグループへの参加者は、準備期間が短い代わりに、少人数でより自由に作品を展示することができます。また、展示時期が早いほど、選抜成果展のための準備期間も長くとれることとなります。展示は一般公開され、各展覧会の終盤に、美術批評家

の榎木野衣氏、美術家の飴屋法水氏、やなぎみわ氏らをゲスト講師に、講評会や意見交換会を行います。講評会・意見交換会の際には、当該の展示に参加していない受講生も指導を受けることができます。

4つの展覧会を通してもっとも力を発揮した複数名の受講生は、2021年3月に開催される最終選抜展に参加する権利が得られます。審査員には岩渕貞哉、福原志保、柳美里、和多利浩一各氏ほかを迎え、主任講師の黒瀬陽平氏もこれに加わり最終講評会を行い、最優秀賞および審査員賞を選出します。最終選抜展は一般に公開されます。

本カリキュラムを通して、分断が進む美術界に一石を投じる新たな才能を持ったアーティストの育成を目指します。

【コレクティブリーダー過程】

コレクティブリーダー過程では、通常過程と同様に講義とワークショップを受講しながら、批評執筆や展覧会の企画に特化した課題を行なっていきます。

展評を執筆する機会は前期と後期にそれぞれ設けられており、執筆した展評の講評会も行われます。講評会には学芸員の新藤淳氏をお招きし、主任講師の黒瀬陽平氏とともにご指導いただきます。

後期の「展覧会」と、選抜者による「最終選抜展」および非選抜者による「裏成果展」では、展覧会のステイトメントの執筆に加え、展示および作家のキュレーション、作品解説など、キュレーターとして必要なスキルを包括的に学んでいきます。

「コレクティブリーダー課程」という名前が示すように、本課程では展覧会に特化した「キュレーター」、執筆に特化した「批評家」という括りの外側での活動を模索し、新たな潮流を生み出す人材の育成を目指します。

【実施概要】

実施期間： 2020年4月12日～2021年3月21日

会場： ゲンロンカフェ 141-0031 東京都品川区西五反田1-11-9 司ビル6F
五反田アトリエ 141-0022 東京都品川区東五反田3-17-4 糟谷ビル2F

主任講師： 黒瀬陽平

ゲスト講師： 飴屋法水、梅津庸一、サエボグ、さやわか、榎木野衣、新藤淳、西澤徹夫、堀浩哉、やなぎみわ、弓指寛治ほか

最終講評会審査員： 岩渕貞哉、福原志保、柳美里、和多利浩一、黒瀬陽平

定員： 通常課程30名、コレクティブリーダー課程5名

募集期間： 2020年1月24日～2020年3月16日

※ 先着順での受付となります。定員に達し次第、受付を締め切らせていただきます。

※ 応募人数が規定数に満たない場合は開講されないこともございます。

受講料： 通常課 290,000 円（税別） 展覧会出展料含む
コレクティブリーダー課程 260,000 円（税別）

※ ゲンロン友の会第 10 期会員および、応募時点でゲンロンスクール（新芸術校／SF 創作講座／ひらめき☆マンガ教室）を受講中の方には割引が適用されます。割引金額は 5,000 円です。割引の併用はできません。

お申込み： こちらの URL よりお申し込みください。 <http://school.genron.co.jp/gcls>

公式サイト： <http://school.genron.co.jp/gcls>

公式フェイスブック： <https://www.facebook.com/genrongcls>

主催： 株式会社ゲンロン

お問い合わせ： 株式会社ゲンロン info@genron.co.jp 03-6417-9230 担当 小宮、松森

- ・ 第 1 期（2015 年度）の活動に関しては、作家の今井新さん監督・撮影による 10 本のショートドキュメンタリー「ゲンロン カオス*ラウンジ 新芸術校密着ドキュメント」を制作しております。動画は公式サイトの第 1 期新芸術校ホームページからご覧いただけます。 <http://school.genron.co.jp/gcls/gcls-2015>
- ・ 第 2 期（2016 年度）以降の活動に関しては、公式フェイスブックでのフォトレポート (<https://www.facebook.com/genrongcls>) およびゲンロンスクール公式ツイッター @genronschool をご覧ください。